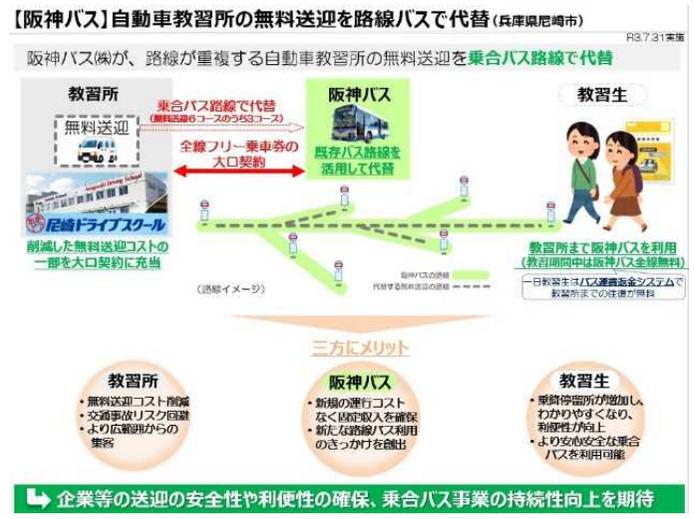


阪神バス株式会社・アスモ株式会社

取組の概要

- ◆ 阪神バスは、令和3年7月31日から、自動車教習所「尼崎ドライブスクール（アスモ株）（以下「あまドラ」）」が無料送迎により行っていた教習生の輸送を、重複する路線バスで代替する取り組みを開始した。
- ◆ あまドラは、削減した無料送迎コストの一部を充当して阪神バスとの大口契約で全線フリー乗車券を購入し、教習生に配布（教習手帳を乗車券として使用）。
- ◆ 教習生は、乗車時に教習手帳を運転者に提示することで、教習所に通う以外の移動も含めて、無料で阪神バス全線が利用可能とした。
- ◆ 合わせて、一日教習生については、往路の阪神バス利用時に支払った運賃の返金と、復路の無料乗車証の発行を行う仕組み（運賃返金システム）を構築した。



1. 多様な主体の実質的参画

- ◆ 阪神バスでは、車両や人件費など新たな運行コストをかけずにバス需要を創出するとともに固定収入を得られるというメリットがある。
- ◆ 「あまドラ」は、無料送迎にかかるコストの削減（人件費、運行経費、交通事故リスク等）というメリットがある。
- ◆ 教習生にとっては、より安心安全な路線バスを利用して無料で教習所に通うことが可能となるだけでなく、乗降可能な場所が増えることで、利便性が向上するというメリットがある。更に、教習手帳があれば「いつでも」「阪神バス全線で」路線バス利用が可能であることから、教習所への通所日以外でも外出が便利となった。

企業等の送迎の安全性や利便性の確保、乗合バス事業の持続性向上を期待

2. 創意工夫

- ◆ 本取り組みでは、阪神バスが**既存路線を活用して「あまドラ」の無料送迎を代替**することにより、車両や人件費など新たな運行コストをかけずに教習生のバス利用機会を創出することとなった点が効率的である。
- ◆ 自家用車免許取得後は公共交通の利用頻度が低下すると一般的に考えられているところ、本取組では、公共交通利用の促進と相対立すると考えられがちな自動車免許取得の機会に着目し、若年層が多数を占める教習生による定期的なバス利用機会を創出する点が特徴的である。アンケート結果からは**免許取得後の行動変容にもつながっている**ことが明らかであり、モビリティマネジメントの観点からも効果的である。
- ◆ 加えて、一日教習生については、往路のバス利用時に支払った運賃の返金と、復路の無料乗車証の発行を行う仕組み（**運賃返金システム**）を構築した点において創意工夫が読み取れる。

3. 自立性・継続性

- ◆ 本取り組みは、**阪神バス、あまドラ、教習生のいずれにも実利が生じており**、社会的意義もさることながら営利目的の事業としても一定の効果がある取組となっている。そのため、共創の取組における「取組開始時の関係者が離れることで持続的な運営が困難となる」という課題を乗り越え、継続性の高い取組といえる。
- ◆ 更に、若年層のバス利用機会の増加させることは、潜在的な公共交通の顧客層の幅を長期間わたって広げることにつながり、公共交通自体の持続可能性の向上に繋がる取組と言える。
- ◆ また、一日教習生に対する運賃返金システムを構築したことで、単発利用者が多い病院や商業施設等が行う独自で無料送迎についても路線バスへの転換が行いやすくなり、モデルケースとしての先例的意義が高い。（**病院への横展開はR5年度新たに実施**）